

学校評価シート（自己評価）令和元年度分

ひさみ 幼稚園

1、園の教育目標

子どもたちに豊かな環境を保障して、子どもたちが環境との出会いの中で、驚いたり、感動したり、発見したり、考えたり自らの興味や関心の要求の質を高め、豊かなあそびや仕事のある生活を展開し、人間としていちばん大切な生きる力を身につけられる保育を目指している。

2、具体的な目標や計画

幼稚園の教育方針を教職員全体で共通理解を図って保育の質を高めていく。園内研修の定期的に行い、教職員間で相互理解と協力体制を整え、幼児理解と適切な援助方法を学ぶ機会を設ける。幼稚園の特色である動物飼育や自然遊びに継続して重点を置き、よりよい環境や設備を整えながら、子どもの心身の健やかな成長につなげていく。

3、評価項目の取組及び達成状況

評価項目	結果(※)	結果の理由
保育の計画性	A	園の教育課程や『幼稚園教育要領』の改訂で示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」について、教員一人ひとりが理解し実践できた。園外研修また園内研修で、その具体的な姿と保育の指導のポイントを学ぶ機会を得たことが大きい。各自資質の向上に努め、概ね保育内容も子どもの発達に見合ったものが遂行できた。園行事が続く秋のひさみ祭りをなくしたことで、業務の負担が軽減され、余裕が持てたことでよりよい保育へとつながった。
教職員の連携の強化	B	教職員間での会議の時間を多く設け、保育面での共通理解を図ることができた。「報告・連絡・相談」の大切さを特に重んじたが、兼務教員なども含めて子どもの怪我などうまく情報の共有ができなかったことが反省点として挙げられる。今後も職員会議を綿密に行っていきたい。
食育	A	自園給食が開始され、2年が経ち、アイコーメディカルとの連携もスムーズになった。温かくて、美味しく、栄養価の高い給食は子どもたちの食欲増進につながっている。園の畑で収穫した野菜を調理してメニューに加えてもらうなどして、食育へとつなげることができた。アレルギー除去食の確認や給食室や調理員の衛生管理、調理器具のメンテナンスなども徹底してきた。

子どもの発達と環境整備	A	アトリエを修繕したり、固定遊具を修繕したりして子どもたちが創造的な遊びを繰り広げられるように工夫した。自然物や廃材、新聞紙、粘土等を使っての造形遊びは豊かな感性・表現力・創造力等を育むことにつながったと思われる。また、ボルダリングなど新たに設け、子どもの運動面の発達を促進させることができた。昨年ポニーが亡くなり、大型動物の飼育の困難さが浮き彫りになった。そこで近くの牧場と連携して、ポニーとのふれあい会を実施し、そこに新たな活路を見出すことができた。
保護者との連携	B	連絡簿「にじ」や電話などで連携を密にとり、保護者の気持ちに寄り添いながら連携を図ることができた。また「気になる子」いわゆるグレーゾーンの子どもが増えつつある中で、その子どもと家庭と専門機関を含めた連携が今後の課題である。また近年、問題にあがる保護者会の活動も充実し、スムーズに行うことができた。但し、新型コロナウイルス対策で園の出入りの制限が敷かれるなど、連携に支障をきたしたこともあった。

4. 具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
A	教育課程や保育計画が見直されたことで、保育の質がより高まった。また、園内外での研修を通じて、保育者一人ひとりの資質の向上が顕著に見られた。さらに保育者同士の連携がスムーズになり、園全体としても保育力も上がったと思われる。特別支援が必要な子や気になる子への配慮や専門機関との連携が十分に図れた。台風19号により、被災した家庭への対応として、園独自に迅速に対応したり保護者からの協力体制を構築したりして、義援金や物資を供給出来た。今後も大災害を想定した危機管理体制をより強固なものにしていきたい。保育者の資質向上や働き方改革など課題はあるが、自然豊かな環境の中で、主体的で思いやりのある子どもの育成に尽力することができた。

○結果(※)について

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
教員の資質向上	保育の専門家として、自覚を持った言動を心がけ、子どもと共に喜び、より成長できるように保育に携わる資質を備えていきたい。今後も『幼稚園教育要領』を意識して、子どもの主体的・対話的で深い学びを大切にしつつ、より専門性を高めようと努力することで、保育者としての資質や能力・良識・適性を高められるようにしていきたい。
小学校との連携	小学校探検や各小学校との連絡会、幼保小合同連絡会など連携を図っているが、今後、園児と小学生の交流事業を増やしていきたい。「幼児期の終わりまでに育てほしい10の姿」を保育実践と重ねて、より具体的に示し合っていきたい。また、園児一人ひとりの情報交換会を綿密に行い、特に発達支援が必要な子やグレーゾーンの子どもの情報伝達を重視し、入学後スムーズな学校生活を送れるようにしていきたい。
新型コロナウイルス対策	新型コロナウイルス対策としての安全面、健康面、衛生面をより強化していく必要がある。特に手洗いやうがい、消毒液の生活習慣を徹底、換気など健康面での十分な配慮をしていきたい。また、保護者の出入りを最低限度にしたり、3密を満たす行事の中止や縮小したりする必要がある。感染者の状況など県や市からの情報をキャッチし、柔軟かつ迅速に対応していきたい。
保護者支援	幼児期の成長は、家庭生活も大きく関与してくるので、園での様子を保護者に伝え、家庭での様子も聞きながら、共に育てていくというスタイルで子どもの心身の健やかな成長を援助していきたい。その中で、保護者の要望にただ応えるだけでなく、子どもの成長に本当に大切なことを伝えられるように心がけていく。情報化社会の中、園だよりやクラスだより等紙媒体の他、ホームページのリニューアルを実施し、情報発信に努めていく。
園内の環境整備	老朽化した物置小屋、遊具の撤去や修繕をして、子どもの安全面の配慮や環境の再構築を考えていきたい。また、園の敷地が広いため、教職員全員で草むしりや大掃除を定期的実施し、環境の維持に努めていきたい。また、砂場道具やボールなどを新たに購入して、子どもたちの遊びの発展につなげることを考えている。